前川崎市議会議員　2012年11月号 No. 71

ほりぞえ健（けん） ニュース

川崎市高津区下作延4―22―12―411
電話&FAX 044―877―6317
ホームページ　http://www.horizoe.com
電子メール　horiken@horizoe.com

「川崎市地震被害想定調査」を公表
～中間取りまとめ結果

●1963（昭和38）年２月６日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
●東京都三鷹市で９年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
●セブン―イレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
●2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
●2007年4月、同２期目当選。
●2011年4月、同３期目挑戦するも惜敗。
●民主党神奈川１８総支部　常任幹事
●民主党神奈川県政策委員
●川崎地方自治研究センター客員研究員
●経済産業省　システム監査技術者
●妻と長女の３人家族　下作延在住

（事務局）
東日本大震災の結果を踏まえ、「川崎市地震被害想定調査」の中間取りまとめが発表されましたね。

（堀添）
はい。これは現在作業が進められている「地域防災計画（地震対策編）」の第２期修正に伴って、最新のモデルに基づき被害想定を行ったものです。

（事務局）
２０１０年にも被害予測が行われましたが、今回の調査とはどう異なるのですか？

（堀添）
まず、本年３月に発表された最新の地盤モデルに基づいて推計を行うとともに、川崎直下型地震に加えて、相模トラフ沿いの地震についても予測を行っています。

（事務局）
どのような被害が想定されるのですか。

（堀添）
前回のモデルよりも震源地が１．８Km～３Kmほど深くなると見込まれているため、地震の被害は小さくなるとされています。
一番被害が大きい川崎直下型（Ｍ７．３）では、市内の広範囲で震度６強が想定され、幸区や高津区の一部の地点では震度７と予測されています。具体的な被害予測は、火災を除いた建物被害による人的被害は死者５７３名（午後０時に発生）から５６８名（午後６時に発生）、建物被害は大破・中破あわせて１８，８５３棟となっています。
前回予測では、建物被害による死者は最大で８５０名、建物被害は２６，５９６棟でしたので、全体的に被害が減少するものと見込まれています。

（事務局）
これからの対応はどうなるのですか。

（堀添）
被害予測に関しては、安全性の観点から、前回予測と比較してより被害が大きい方の想定結果に基づき、防災計画等の見直しを行うものとされています。
現在作業を進めている「地域防災計画（震災対策編）」の第２期見直し結果を平成２５年度上半期に公表するとともに、平成２７年度までに地震による死者を４割減らす等を目標とした地震防災戦略の見直し作業を行っていくことになります。

（事務局）
ありがとうございました。

第48回「川崎市政に参加する会」

3.11後の防災について

～地域のきずなをいかに強め、広めていくのか

日　時：11月21日（水）
18時半~20時45分
場　所：高津市民館（マルイ11階）
第4会議室
講　師：加藤孝明　東京大学　准教授
資料代：500円
主　催：「川崎市政に参加する会」
運営委員会

川崎市における放射線測定結果（11月14日現在）

浄水場：川崎市内の2か所の浄水場では、毎日放射能測定を行っていますが、昨年４月２２日以降、放射性ヨウ素、放射性セシウムとも検出されていません。

大　気：公害研究所（川崎区）、麻生大気測定局で、放射線量実態調査を毎月行っており、地上５ｃｍ、５０ｃｍ、１００ｃｍとも自然界の放射線レベルの範囲内です。（１０月は１０日に実施）

市内農産物：果菜類（トマト、きゅうり）、根菜類（さつまいも、大根、玉葱）、果実（梅、梨、柿）の出荷前チェックでは、昨年５月に梅（セシウム：２９．５ベクレル）、１０月に柿（セシウム：４．５ベクレル）から検出された以外は、検出されていませんでしたが、１０月４日のチェックで柿から１．４ベクレルが検出されました。
（食品衛生法上の基準値は一般食品１００ベクレル/Kg以下）

水道水：不検出

下水汚泥等：入江崎総合スラッジセンター（１０月３１日測定）　放射性セシウム測定
脱水汚泥：４１ Bq/Kg　　汚泥焼却灰：１，２８８ Bq/Kg
（焼却灰は飛散防止処理の上、施設内等で安全に保管されています。）

ごみ焼却灰：橘処理センター（１０月２６日測定）　放射性セシウム測定
主灰：８７Bq/Kg　　飛灰：３５０ Bq/Kg　　排ガス：不検出
（飛灰は飛散防止処理の上、臨海部保管施設等で安全に保管されています。）

放射線測定器の貸し出しを高津区役所でも行っています。
（電話予約が必要です。 044－861－3113）

連載コラム

川崎と高津の地名（No.５）

参考：日本地名研究所編「川崎の町名」

「瀬田」の由来

平成２４年９月３０日付の町丁別人口統計によると、瀬田の人口は８３３人と、高津区の中で一番人口が少ない町名となっています。ちなみに一番人口が多いのは下作延の２０，２７６人ですから、単純に人口数で比較すると２５倍近くもの差となります。

自動車を運転される方はご存知のとおり、国道２４６号線と環状８号線との交差点は「瀬田の交差点」と呼ばれていますが、世田谷区のこの一帯も字名は同じ瀬田です。以前は多摩川が瀬田の南西を流れており、世田谷区の瀬田、玉川と高津区の瀬田は地続きでした。その後、多摩川の流れが変わり、瀬田村が２つに分断され、高津区側の瀬田は飛地となりました。江戸末期に編纂された「風土記稿」には、すでに高津区の瀬田は川を隔てた飛地として記載されていますので、この頃にはすでに多摩川で分断されていたようです。

飛地となった高津区側の瀬田は、対岸の瀬田本村の人々からは「カワムコウ」と呼ばれ、地元の人々は、「瀬田川原」と呼んでいたそうです。

明治２２年の市制・町村制で、東京府荏原郡玉川村大字瀬田の飛地となり、明治４５年の府県境界変更で、瀬田の飛地は神奈川県に編入され、高津村大字瀬田となりました。その後、高津町を経て昭和１２年に川崎市に編入され、昭和４７年の区制により高津区瀬田となりました。

字名の由来は「狭戸」（せと）といわれており、これは海峡などのように谷や岸、山などがせまっているところを意味します。瀬田のどこが「せと」にあたるのかについては諸説があり、多摩川の川の瀬とも、多摩川沿岸から世田谷台地にかけて入り込む谷、つまり瀬田の本村の地形にちなむともいわれています。

政治資金ご寄附のお願い

地元から日本改革を実現するために、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局　口座００２７０－１－２４１６９
銀行振替：川崎信用金庫　高津支店　普通０７９６２９４